









## 所蔵美術品展のご報告

### 「竜一コレクション」を終えて



高29回  
瀧川 典男

白幡台にたたずむ母校を卒業して三十数年。現在、私の母校との関わりは野球の観戦(応援)と夏の大会前の後援会費の徴収、そして二年に一度開催している「さわはた会」(第29回3Cクラス会の永久幹事を務めている)展示を担当したとはいっても、同窓会報の原稿を執筆することに戸惑いと恥ずかしさを感じながら原稿用紙と向き合っています。

まず、今回の展示を開催するにあたっての経緯からご説明したいと思います。龍ヶ崎市歴史民俗資料館では、年に3本から4本の企画展を実施しており、毎年秋には事業計画を作成します。

そんなある日、何気なく見ていた「星霜百年白幡台」の所蔵美術品のページに目がとまり、これらの作品を集めれば、難解な調査研究などせずに簡単に展示ができるのではないかと安易な考えが脳裏に浮かびました。

同時に、現在母校で教鞭をとっている同級生の矢口博君が言っていた「所蔵品を一堂に集めて展示する場所があれば」との言葉を思い出し早速、彼に相談すると「ぜひやろうよ」と快諾を得るとともに全面的に協力する約束をしてくれました。その二ヶ月後の同窓会報には、彼の執筆による所蔵美術品展の案内が掲載されたのです。

実際、準備に取り掛かったのは、新年度に入り5月の連休でした。まず、展示構成

間を要しました。

この作業には、予定外の三日

しく母校を思い出した「興味

をどうするか、作品の搬入はいつにするか、ポスター・チラシの図案、図録の構成、出展者及びそのご遺族への連絡、出展者の略歴の入手等々。

展示構成については、余計なものには展示せず、作品そのものを作り出すと決めました。(調理に例えるなら、あえて手を加えず素材そのものの搬入については、夏休み中に完了。ポ

スター・チラシについては、夏休み中に完了。ポ





